

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01567

研究課題名（和文）「ライフコースと世代」の再編に関する比較家族史的研究

研究課題名（英文）Comparative Study of Family History on Reconstruction of Life Course and Generation

研究代表者

山根 真理 (Yamane, Mari)

愛知教育大学・教育学部・特別教授

研究者番号：20242894

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は20世紀から21世紀にかけて生きてきた人々のライフコースと歴史的時代との関係について考え、家族変動論との対話を行うことで、人生・家族・社会変動の関係を比較史的に捉えることを目指している。対象地域は、韓国、中国、フィリピン、デンマーク、トルコ、日本、主な研究方法はインタビューである。6地域において、2023～4年に、1950年代生まれ、1980年代生まれの人々を対象に、ケアとリプロダクションに重点化したライフコースのインタビュー調査を行った。公開研究会やオンライン・カフェの形で、歴史人口学、家族史との対話を行った。2024年3月に科学研究費報告書を刊行し、同年4月にWebで公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、ライフコース研究と家族変動論の対話をはかる点にある。人生の出来事と歴史的時代のかかわりを具体的に記述、理解するライフコース研究からわかることを通じて家族変動論と対話し、歴史的時間のなかの人間の人生と家族変動を結びつけた比較家族史的認識を得ることができると考える。

本研究の社会的意義は、未婚化、晩婚化、少子化、成人期への移行の危機、ケア労働力不足など、現代社会において「少子高齢化」と連動して語られる「ライフコースと世代再生産」の「危機」に対して比較家族史的認識をえることを通じて、「ライフコースと世代再編」に関して、冷静で包括的な認識を生み出す可能性を探る点にある。

研究成果の概要（英文）： This research aims to grasp the relationship between life, family, and social change from a comparative historical perspective by considering the relationship between the life course of people who lived from the 20th to the 21st century and historical periods, and by engaging in dialogue with the family change theories. The target areas are South Korea, China, the Philippines, Denmark, Turkey, and Japan. Major research method is interviews. During 2023 and 2024, we conducted a life course interview focusing on care and reproduction for people born in the 1950s and 1980s in six regions. In addition, in the form of open workshops and online cafe, we held dialogues with historical demography and family history. The Grants-in-Aid for Scientific Research Report summarizing the research results was published in March 2024, and its web version was released in April 2024.

研究分野：家族社会学

キーワード：ライフコース 世代 比較家族史 ジェンダー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、プロジェクト代表である山根が 21 世紀初頭以降に実施あるいは参加してきた、家族の国際比較研究の延長上に構想された。代表者がこれまでかかわってきた国際比較研究は、現代家族の比較研究と、歴史的時代と家族変動の比較研究に大別される。それらの研究を振り返る中で、「ライフコースと世代」の観点で歴史と現代を統合することで、比較家族史および現代家族理解に対して新たな視野を得ることができるのではないかと着想するようになった。

注目するのは、20 世紀から 21 世紀にかけて生きてこられた方々のライフコース（人生の道筋）である。一人ひとりの人生と歴史的時代との関係について考え、家族変動論との対話を行うことで、人生・家族・社会変動の関係を比較史的に考えることを目指した。

本研究は直接的には、2007～09 年度に山根が代表として実施した科学研究費プロジェクトである「アジア・ライフコース研究プロジェクト」の続編である。このプロジェクト（AL 科研プロジェクト）の一環として、妊娠、出産、子育て、介護など、ケアにかかわるライフ・イベントとそれを支えるネットワークに注目し、韓国、中国、フィリピン、日本において 2009 年に、1920～40 年代生まれの方を対象に設定し、ライフコースの比較調査を実施した。この「アジア・ライフコース調査」（AL2009 調査）を通じ、ケアネットワークの変化を基層的家族・親族システムと歴史・社会変動の混合とみなしうることで、出産の近代化には複数の道筋があることなどの認識を得た。（山根他，2014、山根・洪，2018）

本プロジェクトは、AL2009 調査からほぼ 10 年たった時点にあつて、後続の 1950 年代出生コーホートとその子ども世代にあたる 1980 年代出生コーホートの人々のライフコースに関する調査を同一地域で実施することで 20 世紀以降のアジア諸地域のライフコースを重層的に理解するとともに、対象地域をヨーロッパと西アジアに広げ、世界史的な視野で 20 世紀から 21 世紀にかけての比較家族史的洞察をえることをねらって着想された。

2. 研究の目的

本プロジェクトの目的は、東アジア、東南アジア、西アジア、ヨーロッパに射程を広げたライフコースの比較調査と、歴史人口学、家族史とライフコース研究の対話を通して、多面的な比較家族史的認識を得ることである。研究方法の中心は、世界の 6 地域におけるライフコースのインタビュー調査である。歴史人口学、家族史とライフコース研究の対話にかんしては、歴史的資料の再分析の方法を用いた。

プロジェクトの理論的関心は、ライフコース論と家族変動論の対話をはかることにある。人生の出来事と歴史的時代のかかわりを具体的に記述、理解するライフコース研究からわかることを通じて家族変動論と対話し、歴史的時間のなかの人間の人生と家族変動を結びつけた比較家族史的認識が得られるのではないかと考えた。

本研究はライフコース研究のなかでも特に、ライフコースと歴史的時代の関連に注目する研究蓄積に多くを負っている。（エルダー，1986、ハレーブン，2001、森岡・青井，1991、安藤由美，1998，2000、安藤究，2017）本プロジェクトのライフコース研究としての特徴は、ジェンダー視角を重視する点にある。ジェンダー視角のなかで本研究が重点をおくのは、妊娠・出産などのリプロダクションにかかわる経験や、近代化にともなって独特の意味や価値が与えられ、家族のなかの女性に配分されてきた、子育てや介護などのケアにかかわる経験である。人生のなかで人が直接、間接的に出会い、他者による助けが必要なこれらの経験について、それを支えるネットワークにも注目する。これらの点が本研究のライフコース研究としての独自性である。

本プロジェクト研究の目的は、多面的な比較家族史的認識を得るという学術的なものであるが、未婚化、晩婚化、少子化、成人期への移行の危機、ケア労働力不足など、現代社会において「少子高齢化」と連動して語られる「ライフコースと世代再生産」の「危機」に対して比較家族史的認識をえることを通じて、「ライフコースと世代再編」に関して、冷静で包括的な認識を生み出す可能性を探る意義もあると考える。

3. 研究の方法

3.1 研究の経過

2020 年度 2 月以降、約 3 年間続いた新型コロナウイルスパンデミックにかかわる状況のため、現地でのインタビュー調査を中心的な方法とする本研究は、当初計画を修正せざるを得なかった。初年次の 2020 年度、二年目の 2021 年度は調査を実施できる状況になく、もっぱらオンライン研究会での情報、意見交換と基礎的研究を行い、2022 年 3 月に韓国と中国で洪上旭先生、李東輝先生の協力の下、オンラインで予備インタビュー調査を行った。

コロナ禍のなかでできる調査方法（web を通じた質問紙調査、オンラインインタビュー）に中心的方法を切り替えることも議論したが、直接お会いしてお話をお聞きするインタビュー調査を行う可能性を待って、コロナ禍がやや沈静してきた 2023 年 2 月以降、対面でのインタビューが可能な地域において現地調査を実施、対面インタビューが難しい地域においてはオンラインインタビューを行った。科学研究費の研究助成期間は 2020～22 年度の 3 年間であるが、調査実施のために毎年繰越申請を行い、最終年度の 2022 年度も次年度に計画を一部繰り越し、2023 年

度まで研究を継続した。

2020年4月の研究開始時から2024年2月までに、計10回の研究会を開催した。そのうち8回はオンライン、1回は対面とオンラインの併用、1回は対面で行った。10回の研究会のうち、2回はプロジェクトに関連する研究をされている研究者を講師に招いて実施した。

3.2 インタビュー調査

本プロジェクト研究における主な研究方法は、6地域におけるインタビュー調査である。調査対象者の「世代」については、1950年代生まれ、1980年代生まれという二つの出生コーホートを設定した。1950年代出生コーホートを対象者にした意味は第一に、AL2009調査の調査対象として設定した1920～40年代出生コーホートの次の世代だということにある。1980年代生まれの人々は、1950年代生まれの人々の子ども世代にあたる。第二に歴史的時間という観点からすれば、1950年代出生コーホートは冷戦体制、フォーディズム生産体制の普及など、第二次世界大戦終結後の世界秩序が形成された時代に生を受けた人々である。1980年代出生コーホートは、政治的には東西ドイツ統一、東欧社会主義国家の崩壊など、冷戦体制が崩れ、資本主義諸国の経済発展に陰りがみられるようになった時期以降に生まれた世代でもある。また、1960年代後半以降に西側産業諸国におこった第二波フェミニズムを受けて、1970年代半ば以降、ジェンダー平等が、国連が主導する世界的潮流になった後に生まれた世代でもある。

プロジェクトで作成した基本インタビュー項目にもとづき、各地域で独自の事項を加えたり、事情によって一部の項目に重点化したりする形で6地域においてインタビュー調査を実施した。調査実施にあたり、研究協力者の洪上旭先生(韓国)、李東輝先生(中国)、Tolga Özşen先生(トルコ)、Melek Çelik先生(トルコ)には一方ならぬご尽力をしていただいた。

表に6地域インタビュー調査の概要を示す。

表 6 地域におけるインタビュー調査の概要

	調査地域	調査方法	調査時期	調査対象: 1950年代 生まれ	調査対象: 1980年代 生まれ	備考
韓国	テグ広域市	対面インタビュー	2023年2～3月、8月	女性4人 男性2人	女性4人 男性4人	
中国		オンライン	2023年7～11月	女性10人	女性6人 男性4人	大連市在住の方に調査への協力をいただいた。
フィリピン	ルソン島北西部イロコス・ノルテ州	対面インタビュー	2023年2月	女性6人*		*1960年代生まれの人2人を含む。 給与職継続グループ、農業中心生計グループ、それぞれ3人に依頼した。
デンマーク	オーフス市及びその近隣市	対面インタビュー	2022年12月～2023年2月	女性5人 男性4人	女性2人* 男性3人	*1990年代初頭生まれの人1人を含む。
トルコ		オンライン	2023年11月	女性3人 男性3人	女性3人 男性3人	
日本	名古屋市及びその周辺市	対面インタビュー*	2023年3月～12月、2024年3月(補充調査)	女性6人 男性4人	女性4人 男性2人	*1ケースはオンラインインタビュー

3.3 歴史人口学研究交流

歴史人口学、家族史との対話にかんして、2022年9月27日にソウル大学の Park, Keong-Suk 先生をリーダーとする歴史人口学研究チームとの研究交流を行った。研究会の概要は以下の通りである。研究会は「オンライン・カフェ」として、プロジェクトメンバーによる報告をめぐって Park 先生のコメントを受ける形で実施した。

4. 研究成果

新型コロナウイルス禍による事情で現地調査実施が遅れたため、中心的研究成果の公表も遅れた。2023年11月26日に日本女子大学で開催された比較家族史学会2023年度秋季大会シンポ

ジウムにおいて、「ケアとジェンダーでみるライフコースの変容：アジア・ヨーロッパ6 社会の事例から」のテーマでの発表が本格的な成果報告の一步となった。2024 年 3 月には科研報告書を刊行し、同年 4 月に報告書の PDF 版を愛知教育大学教育研究リポジトリから公開した。今後、AL2009 調査の再分析や歴史人口学、家族史との対話も含め、成果公表を続けていく。

学会報告

「ケアとジェンダーでみるライフコースの変容：アジア・ヨーロッパ6 社会の事例から」比較家族史学会 2023 年度秋季大会シンポジウム 2023 年 11 月 26 日 於日本女子大学

報告書

山根真理編 『「ライフコースと世代」の再編に関する比較家族的的研究』研究成果報告書 2020～22 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））2023 年 3 月

報告書 PDF 版の URL を下記に示す。

<https://aue.repo.nii.ac.jp/records/2000421>

文献

- 安藤究，2017 『祖父母であること：戦後日本の人口・家族変動のなかで』名古屋大学出版会。
安藤由美，1998 『激動の沖縄を生きた人々 ライフコースのコーホート分析』早稲田大学人間総合研究センター。
安藤由美，2000 『沖縄におけるライフコースの出生コーホートの比較研究』平成 9.10 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書。エルダー，G.H. & ジール，J.Z.，2003，正岡寛司・藤見純子訳 『ライフコース研究の方法：質的ならびに量的アプローチ』明石書店。
エルダー，G.H.，1986，本田時雄・川浦康至・伊藤裕子・池田政子・田代俊子訳 『大恐慌の子どもたち 社会変動と人間発達』明石書店。
ハレーブン，T.K.，2001。正岡寛司監訳 『家族時間と産業時間』早稲田大学出版部。
森岡清美・青井和夫，1991 『現代日本人のライフコース』日本学術振興会。
山根真理・洪上旭・朴京淑・李東輝・長坂格・中筋由紀子，2014 「20 世紀アジアの社会変動と産育のネットワーク 5 地域ライフコース調査から」『愛知教育大学研究報告』(人文・社会科学編) 63：155-166。
山根真理・洪上旭，2018 「ライフコースからみる韓国の家族・ジェンダーの変容：テグ調査コーホート分析を中心に」『社会学雑誌』34：1-20。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 安藤究・巽真理子	4. 巻 34
2. 論文標題 「パブリック/プライベート」空間の重なりと家族・ワークライフバランス：特集への招待	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 43 49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4234/jjoffamilysociology.34.43	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 李璟媛・細田萌	4. 巻 180
2. 論文標題 男女共同参画に関する高校生の意識 家庭生活と社会生活を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岡山大学大学院教育学研究科研究集録	6. 最初と最後の頁 49 59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 李璟媛・呉貞玉・森田美佐	4. 巻 133
2. 論文標題 韓国の教員養成課程の大学生におけるしつけと虐待に関する認識	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岡山大学大学院教育学研究科研究集録	6. 最初と最後の頁 49 60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 磯部香	4. 巻 83
2. 論文標題 少子高齢化が到来した現代中国における「循環するケア」の検討 -費孝通（1910-2005）の提唱した「フィード・バック型」ケアを主軸として-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 高知大学教育学部研究報告	6. 最初と最後の頁 133 140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 磯部香・李東輝	4. 巻 6
2. 論文標題 国家政策と家族の狭間で生き抜く「50后」の中国女性たちのライフストーリー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 高知大学学校教育研究	6. 最初と最後の頁 139 147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 レ ティ チャン・山根 真理・高綱 睦美	4. 巻 73
2. 論文標題 ベトナム出身高学歴留学生のキャリア形成上の困難 インタビューデータを通じた考察	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告. 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 98-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木 加奈子	4. 巻 第4号
2. 論文標題 大学生のライフコースとケアにかんする意識調査 コペンハーゲン調査結果の報告 (資料)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福祉生活デザイン研究	6. 最初と最後の頁 27 ~ 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 磯部 香	4. 巻 72
2. 論文標題 多文化共生と就学前教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本家政学会誌	6. 最初と最後の頁 295 ~ 300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11428/jhej.72.295	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山根 真理・李 璟媛・平井 晶子・呉 貞玉	4. 巻 35
2. 論文標題 世代間関係の日韓比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較家族史研究	6. 最初と最後の頁 39～55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11442/jscfh.35.39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 李 璟媛・谷口 晴香	4. 巻 177
2. 論文標題 児童虐待防止教育に関する中学校教員の意識と現状	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 研究収録 (岡山大学大学院教育学研究科編)	6. 最初と最後の頁 85～93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平井 晶子	4. 巻 38
2. 論文標題 三〇〇年からみる日本の家族と人口	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学雑誌	6. 最初と最後の頁 6～19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮坂 靖子・青木加奈子・鄭楊・磯部香・山根真理・李東輝	4. 巻 25(1)
2. 論文標題 家事・育児における性別役割分業とサポートネットワーク -名古屋・ハルビン・コペンハーゲンの比較考察-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 研究所紀要 (金城学院大学消費生活研究所)	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 安藤 究	4. 巻 39
2. 論文標題 近年における「祖父母・孫関係」研究の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 家族関係学	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24673/jjfr.39.0_57	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 李璟媛・呉貞玉・山根真理・平井晶子	4. 巻 175号
2. 論文標題 性別役割意識と実態 韓国昌原市における未就学児の親調査に基づいて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究集録	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 篠原久枝・李璟媛・呉貞玉	4. 巻 194号
2. 論文標題 しつけと虐待に関する意識と実態 宮崎県における未就学児の親調査に基づいて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宮崎大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 139-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 磯部香	4. 巻 第81号
2. 論文標題 幼稚園教育要領「環境」領域における国際理解の課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高知大学教育学部研究報告	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木加奈子	4. 巻 第4号
2. 論文標題 大学生のライフコースとケアにかんする意識調査 コペンハーゲン調査結果の報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福祉生活デザイン研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平井晶子	4. 巻 56
2. 論文標題 新刊短評 Berry, Mary E. and Yonemoto, Marcia eds., 2019, What Is a Family? Answer from Early Modern Japan. University of California Press,	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人口学研究	6. 最初と最後の頁 93-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平井晶子	4. 巻 39
2. 論文標題 文献紹介 小島宏・廣嶋清志編『人口政策の比較史 せめぎあう家族と行政』(日本経済評論社、2019年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 家族関係学	6. 最初と最後の頁 79-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24673/jjfr.39.0_79	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田 恵 , 長坂 格	4. 巻 55
2. 論文標題 山間地域における移住者の社会的役割 : その継承と生成に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本の科学者	6. 最初と最後の頁 569-575
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根 真理 , 李 璟媛 , 平井 晶子 , 吳 貞玉	4. 巻 35
2. 論文標題 世代間関係の日韓比較 : 子育て期の家族を対象にした質問紙調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較家族史研究 (35), 39-55, 2020	6. 最初と最後の頁 39-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11442/jscfh.35.39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 山根真理
2. 発表標題 パネル・ディスカッション 家族関係学部会 2022年家政学原論部会夏季セミナー 統一テーマ「家政学・家政学原論の未来を切り拓く：日本家政学の SDGs ポジション・ステートメント (3&5, 11, 12) 試案 (公表とパネル・ディスカッション)」
3. 学会等名 家政学原論部会夏季セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青木加奈子
2. 発表標題 デンマーク・地方都市における子育ての実態 インフォーマルな子育てネットワークに注目して
3. 学会等名 第45回日本家政学会関西支部研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 李璟媛・田邊詩歩
2. 発表標題 多様化する結婚に関する高校生の意識
3. 学会等名 日本家政学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平井晶子
2. 発表標題 死が身近な社会の中の家族：歴史人口学的アプローチ
3. 学会等名 第72回比較家族史学会春季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮坂靖子
2. 発表標題 デンマークの向シニア世代のライフコースとウェルビーイング
3. 学会等名 日本家政学会家族関係学部会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平井晶子
2. 発表標題 ジェンダー構造のねじれをほどく アジアの中で日本家族の近代化を考える（テーマセッション「アジアの多様性 / アジアの中の日本『リーディングス アジアの家族と親密圏』を手がかりに」組織者：落合恵美子）
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平井晶子
2. 発表標題 近代化は日本女性に何をもたらしたのか 18 - 20世紀の歴史人口学的考察
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山根真理
2. 発表標題 「ケアとジェンダーでみるライフコースの変容：アジア・ヨーロッパ6 社会の事例から」シンポジウム趣旨
3. 学会等名 2023年比較家族史学会第73回秋季研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 李璟媛・洪上旭
2. 発表標題 韓国における子育て支援政策と世代間関係の変容 「黄昏育児」のゆくえ -
3. 学会等名 2023年比較家族史学会第73回秋季研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 磯部香・李東輝
2. 発表標題 ケアをめぐる彼女たちの選択 自己・家族と国家のはざままで (中国)
3. 学会等名 2023年比較家族史学会第73回秋季研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長坂格
2. 発表標題 フィリピンにおける1950年代生まれ女性のライフコース：地方在住公務員と農業従事者の出産、育児、就業、介護経験を中心に
3. 学会等名 2023年比較家族史学会第73回秋季研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青木加奈子・宮坂靖子
2. 発表標題 デンマークにおけるケア規範およびケア実践の変遷 1950年代生と1980年代生の世代間比較を通して
3. 学会等名 2023年比較家族史学会第73回秋季研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山根真理
2. 発表標題 ケア・ネットワークの比較を通して見た日本の「ライフコースと世代」再考
3. 学会等名 2023年比較家族史学会第73回秋季研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平井晶子
2. 発表標題 コメント1 歴史人口学・家族史の視点から
3. 学会等名 2023年比較家族史学会第73回秋季研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青木 加奈子・宮坂 靖子・磯部 香・山根 真理・鄭 楊・李 東輝
2. 発表標題 子育ての担い手に関する国際比較 名古屋・ハルビン・コペンハーゲンでの調査結果をもとに
3. 学会等名 日本家政学会家族関係学部会 第41回家族関係学セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安藤 究・巽真理子
2. 発表標題 「パブリック/プライベート」空間の重なりと家族・ワークライフバランス 「職住分離の不明瞭化」の影響を考えるために
3. 学会等名 日本家族社会学会（於：九州大学（オンライン））
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nagasaka, Itaru
2. 発表標題 On Migration, Family and Gender: Views from Asia”
3. 学会等名 16th Asia-Pacific Sociological Association Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平井 晶子
2. 発表標題 人口からみた近代移行期の日本：近代移行期の世帯と家族
3. 学会等名 日本人口学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮坂 靖子・青木加奈子・磯部香・山根真理・李東輝・鄭楊
2. 発表標題 子育てと情緒規範 日本・中国・デンマークの国際比較を通して
3. 学会等名 第40回家族関係学セミナー（（一社）日本家政学会家族関係学部会主催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李璟媛・呉貞玉・山根真理・平井晶子
2. 発表標題 性別分業意識と実態 韓国の未就学児の親調査にもとづいて
3. 学会等名 日本家政学会（高崎健康福祉大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 磯部香・青木加奈子
2. 発表標題 現代中国における母親のライフコース選択 「代溝 daigou」を中心に
3. 学会等名 第40回家族関係学セミナー 日本家政学会家族関係学部会主催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 落合恵美子・森本一彦・平井晶子
2. 発表標題 アジアの家族と親密圏
3. 学会等名 比較家族史学会報告（於：日本大学zoom）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平井晶子
2. 発表標題 外国人住民の結婚と出生
3. 学会等名 日本人口学会報告（於：埼玉県立大学zoom）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 石川裕之・大風薫（編著）、青木加奈子（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 174
3. 書名 文化のポリフォニー （青木 加奈子担当章「第8章 北欧、5つの社会の家族政策とジェンダー」pp.118-135）	

1. 著者名 村井誠人（編著）、青木加奈子（共著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 382
3. 書名 デンマークを知るための70章 第2版（青木担当章「第66章 デンマークの子育て - 親たちが感じる「子どもがかわいそう」とは？」pp.348-352）	

1. 著者名 Ochiai Emiko and Hirai Shoko eds.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 435
3. 書名 Japanizing Japanese Families: Regional Diversity and the Emergence of a National Family Model through the Eyes of Historical Demography	

1. 著者名 平井晶子・中島満大・中里英樹・森本一彦・落合恵美子編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 316
3. 書名 <わたし>から始まる社会学 生・ケア・家族から世界へ	

1. 著者名 敷中 征代・玉瀬 友美編著（磯部香 分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 192
3. 書名 子ども家庭支援の心理学 生涯発達・子どもの家庭と心の健康の理解	

1. 著者名 宮坂 靖子編（青木 加奈子、磯部 香、山根 真理 分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 248
3. 書名 ケアと家族愛を問う	

1. 著者名 鈴木理恵編（分担執筆 平井 晶子）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 314
3. 書名 家と子どもの社会史：日本における後継者育成の研究	

1. 著者名 森本 一彦・平井 晶子・落合 恵美子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 442
3. 書名 家族イデオロギー リーディングス アジアの家族と親密圏	

1. 著者名 平井 晶子・落合 恵美子・森本 一彦・編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 489
3. 書名 結婚とケア リーディングス アジアの家族と親密圏	

1. 著者名 落合 恵美子・森本 一彦・平井 晶子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 478
3. 書名 セクシュアリティとジェンダー リーディングス アジアの家族と親密圏	

1. 著者名 張季風主論	4. 発行年 2020年
2. 出版社 社会科学文献出版社（中国・北京）	5. 総ページ数 323
3. 書名 少子高齢化社会と家庭 中日政策与实践比較 所収論文著者名：宮坂 靖子・李東輝・青木加奈子・磯部香・鄭楊・山根真理 論文名：從老人護理規範和情感規範看家庭意識的變遷 - 以對中日大學生的問卷調查為依據 ページ：268-279	

〔産業財産権〕

〔その他〕

山根真理編 『「ライフコースと世代」の再編に関する比較家族史的研究』研究成果報告書
2020-22 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））2023年3月

報告書PDF版のURLを下記に示す。
<https://aue.repo.nii.ac.jp/records/2000421>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮坂 靖子 (Miyasaka Yasuko) (30252828)	金城学院大学・生活環境学部・教授 (33905)	
研究分担者	平井 晶子 (Hirai Shoko) (30464259)	神戸大学・人文学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	青木 加奈子 (Aoki Kanako) (30737531)	京都ノートルダム女子大学・現代人間学部・准教授 (34312)	
研究分担者	磯部 香 (Isobe Kaori) (30786158)	高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・准教授 (16401)	
研究分担者	長坂 格 (Nagasaka Itaru) (60314449)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・教授 (15401)	
研究分担者	安藤 究 (Ando Kiwamu) (80269133)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授 (23903)	
研究分担者	李 キョンウォン (Lee Kyoung Won) (90263425)	岡山大学・教育学域・教授 (15301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	洪 上旭 (Hong Sang Ook)	嶺南大学校	
研究協力者	李 東輝 (Li Dong Hui)	大連外国語大学	
研究協力者	オズセン トルガ (Ozsen Tolga)	チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学	
研究協力者	チェリック メレッキ (Celik Melek)	チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 L&G研究会 公開研究会（オンライン）	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 比較家族史学会 第73回 秋季研究大会 シンポジウム「ケアとジェンダーでみるライフコースの変容：アジア・ヨーロッパ6 社会の事例から」	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
韓国	嶺南大学校		
中国	大連外国語大学		
トルコ	Canakkale Onsekiz Mart University		